

# 環境報告書

<2011年度>

株式会社東急百貨店

## ごあいさつ

当社は、東急グループのリテール関連事業の中核企業として、グループスローガン「美しい時代へー東急グループ」を実践すべく、東急沿線エリアのライフスタイルや生活価値の向上に貢献してまいりました。

また、企業の社会的責任として、法令順守、地域貢献活動に取り組んでいます。本年3月に発生いたしました東日本大震災当日は、帰宅できなくなったお客様のために店舗の一部を終夜解放し、また、義援金受け付けなどにも取り組みました。

環境問題へは、お客様、お取引先様のご理解、ご協力をいただきながら、百貨店らしい、百貨店だからこそその取り組みを積極的に推し進めています。

環境に配慮した商品や情報の提供・発信、マイバッグをお持ちいただくための取り組み、地球温暖化ガスの削減に向けた省エネルギー・省資源活動の推進につとめてまいりました。こうした取り組みを継続的に行うための従業員への教育・啓発も朝礼等の場を活用して進めております。

このたび「環境報告書」を改定いたしました。当社の環境保全活動の一端が皆様にご理解いただければ幸いです。

2011年9月

取締役 社長執行役員

二橋千裕

## 目次

ごあいさつ・・・1

会社概要／沿革・・・2

環境方針／環境マネジメント体制・・・3

### 主な取り組み

- 1.店舗でのエネルギー使用量・CO<sub>2</sub>排出量削減への取り組み・・・4
- 2.限りある資源の有効活用への取り組み・・・7
- 3.環境に配慮した商品の提供への取り組み・・・14
- 4.地域の皆様に快適な環境をご提供する取り組み・・・15
- 5.環境関連法規制順守と環境リスク管理の徹底・・・16

2010年度の取り組み結果・・・17

2011年度の取り組み計画・・・19

## 本報告書について

### 掲載内容範囲

環境保全活動に関する情報を掲載しています。  
CO<sub>2</sub>排出係数などの係数は、温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度に準拠しています。

### 掲載対象範囲

東急百貨店単体

### 掲載対象期間

2010年4月～2011年3月

「環境問題への取り組み」は以下にも掲載しております。  
<http://www.tokyu-dept.co.jp/corporate/eco/>

## 会社概要

会社名	株式会社東急百貨店
英文名	TOKYU DEPARTMENT STORE CO.,LTD
本社所在地	〒150-8019 東京都渋谷区道玄坂2-24-1
設立	大正8年3月7日
資本金	100億円
営業成績	売上高2,022億24百万円(2010年度)
従業員数	2,465人(社員 2011年1月末現在)
店舗所在地	東横店/〒150-8319 東京都渋谷区渋谷2-24-1 TEL 03(3477)3111(代表) 本店/〒150-8019 東京都渋谷区道玄坂2-24-1 TEL 03(3477)3111(代表) 吉祥寺店/〒180-8519 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-3-1 TEL 0422(21)5111(代表) たまプラーザ店/〒225-0002 神奈川県横浜市青葉区美しが丘1-7 TEL 045(903)2211(代表) さっぽろ店/〒060-8619 北海道札幌市中央区北四条2-1 TEL 011(212)2211(代表) 町田東急ツインズ/〒194-8501 東京都町田市原町田6-4-1 TEL 042(728)2111(代表) 港北東急/〒224-0032 神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央5-1 TEL 045(944)6111(代表) ※2011年1月閉店 日吉東急avenue/〒223-0061 神奈川県横浜市港北区日吉2-1-1 TEL 045(560)1511(代表)

## 沿革

1662(寛文2年)	8月	江戸日本橋に呉服屋として白木屋創業
1919(大正8年)	3月	会社設立。(株)白木屋呉服店となる
1934(昭和9年)	11月	東京横浜電鉄(株)(現東京急行電鉄(株))の百貨店部として東横百貨店(現東横店)創業
1937(昭和12年)	12月	東京横浜電鉄(株)の子会社として東横興業(株)設立
1948(昭和23年)	5月	東横興業(株)が東京急行電鉄(株)より百貨店事業を譲受。(株)東横百貨店を設立
1967(昭和42年)	9月	商号を(株)東急百貨店に変更
1967(昭和42年)	11月	本店開店
1973(昭和48年)	10月	(株)さっぽろ東急百貨店開店
1974(昭和49年)	6月	吉祥寺店開店
1980(昭和55年)	10月	(株)まちだ東急百貨店開店
1982(昭和57年)	8月	(株)きたみ東急百貨店開店
1982(昭和57年)	10月	(株)たまプラーザ東急百貨店開店
1993(平成5年)	4月	青葉台東急百貨店オープン((株)西南東急百貨店)
1995(平成7年)	11月	(株)日吉東急百貨店オープン
1997(平成9年)	9月	横浜みなとみらい21地区に「クイーンズイースト」オープン((株)よこはま東急百貨店)
1998(平成10年)	4月	横浜市都筑区に港北東急百貨店ショッピングセンターオープン((株)港北東急百貨店・(株)TMD)
2000(平成12年)	4月	「東急フードショー」オープン(東横店地下1階食品街)
2004(平成16年)	2月	本社(鷺沼物流センターを除く)および法人外商事業部においてISO14001を認証取得。
2005(平成17年)	4月	東京急行電鉄(株)の完全子会社化 (株)東急百貨店サービスおよび鷺沼物流センターにおいてISO14001を認証取得
2007(平成19年)	1月	本店、通信販売事業部、(株)東急百貨店サービス本社、東急百貨店健康保険組合においてISO14001を認証取得
2008(平成20年)	11月	吉祥寺店においてISO14001を認証取得

## 東急百貨店 環境方針

当社は、『自然環境との融和をめざした経営を行う。』という東急グループの経営理念に基づき、地域社会の良き企業市民として環境保全に積極的に取り組み、企業の社会的責任を全うする事業活動を行います。

1. 循環型社会システムの実現のために、お客様とお取引先のご協力をいただき、省エネルギー・省資源や廃棄物の削減、リサイクルに努めます。
2. 環境に配慮した商品やサービスの提供を通じて顧客満足の上昇に努めます。
3. 環境関連の法規制および当社が合意したその他の要求事項を順守し、環境負荷の低減に努めます。
4. 環境活動における目的・目標を定め、定期的に見直し、継続的な改善と汚染の予防に努めます。

2003年 8月 9日制定

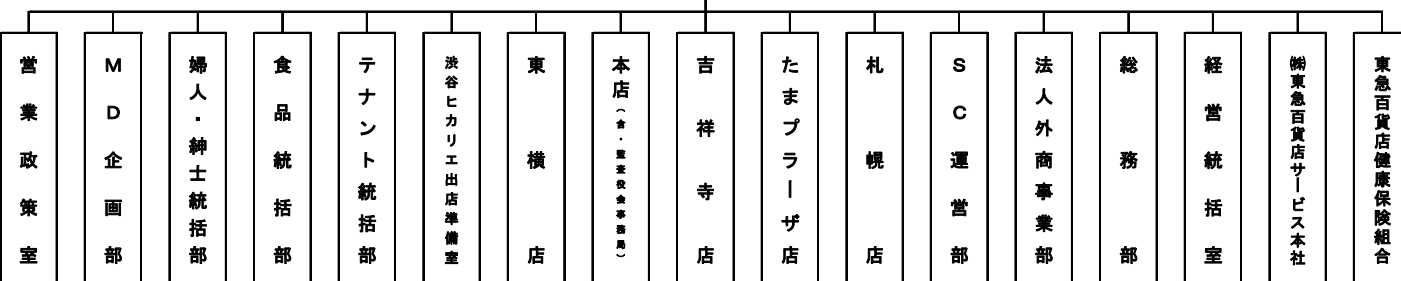
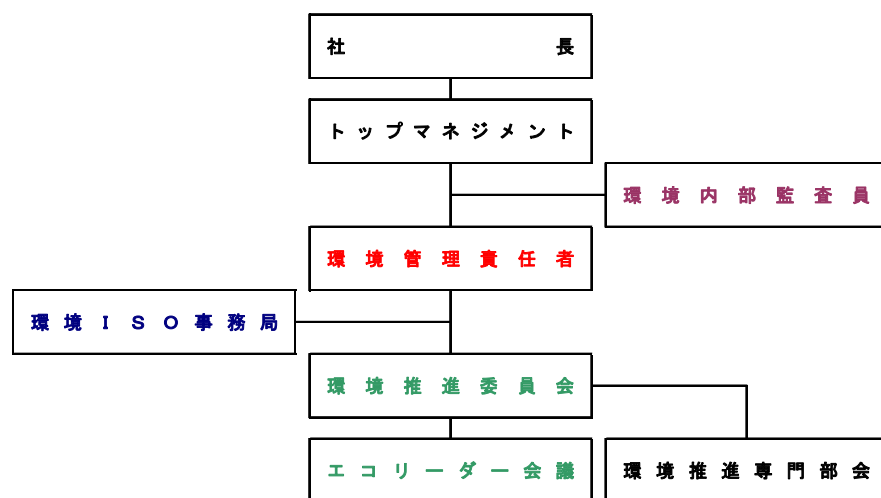
2010年 2月23日改定

この環境方針を当社に働くすべての人に周知し、社外にも公開します。

株式会社 東 急 百 貨 店  
取締役社長執行役員

二 橋 千 裕

## 環境マネジメント体制



## 1. 店舗でのエネルギー使用量・CO<sub>2</sub>排出量削減への取り組み

地球温暖化防止、二酸化炭素排出量削減は世界共通の課題です。

お客様のご理解をいただきながら進める取り組み、従業員全員が意識して進める取り組み、企業の責任としての取り組みなど全社で取り組んでいます。

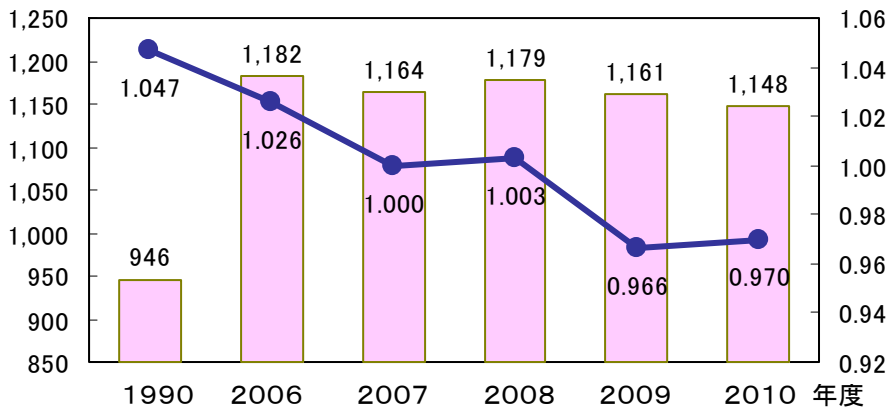
### (1) エネルギー使用量削減の取り組み

2010年度のエネルギー使用実績は、1,148千ギガ・ジュール（GJ）となりました。

エネルギー消費量と原単位の推移

消費量(千GJ)

原単位(千GJ/m<sup>2</sup>・h) ※



※エネルギー使用量原単位  
=エネルギー使用量/(床面積×営業時間)  
東横店・本店・吉祥寺店・町田東急ツインズ・さっぽろ店を合わせたデータ

■ エネルギー消費量  
● 原単位

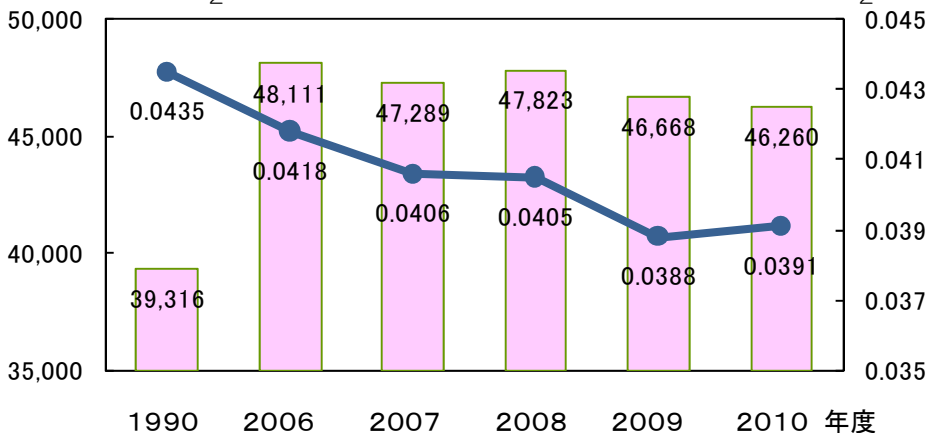
### (2) CO<sub>2</sub>排出量削減の取り組み

2010年度のCO<sub>2</sub>排出量実績は、46,260 t-CO<sub>2</sub>となりました。

CO<sub>2</sub>排出量と原単位の推移

排出量(t-CO<sub>2</sub>)

原単位(t-CO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup>・h) ※



※CO<sub>2</sub>排出量原単位  
=CO<sub>2</sub>排出量/(床面積×営業時間)  
東横店・本店・吉祥寺店・町田東急ツインズ・さっぽろ店を合わせたデータ

■ CO<sub>2</sub>排出量  
● 原単位

## 主な取り組み事例

### ①「ライトダウンキャンペーン」への参加

環境省の提唱する「ライトダウンキャンペーン」に2008年度から参加しています。2010年度も6月21日「夏至」、7月7日「クーラーアースデー」の2回、午後8時～10時の間、ライトダウンを各店舗で実施いたしました。

この取り組みにより全社で延べ475kwhの電力使用量を削減することができました。



ライトダウンキャンペーン [さっぽろ店]

### ②夏場の冷房温度緩和

日本百貨店協会の環境対策アクションプランの一環として、6月1日から9月30日まで「冷房温度緩和」の取り組みを実施いたしました。

期間中、一部売場を除き冷房温度を約2度高く設定しました。お客様のご理解をいただくため、全国百貨店共通のポスター、ステッカーを出入り口などに貼り出しました。それとともに、加山雄三氏（「チャレンジ25キャンペーン」応援団キャプテン）による業界統一「店内放送」でお客様へ呼びかけを行いました。



日本百貨店協会統一ポスター

### ③水の有効利用

天然水を浄化する過程で多くのエネルギー、薬剤を使用することから、水（上水）の使用量削減にも取り組んでいます。

さっぽろ店、町田東急ツインズでは、トイレの洗浄水などに地下水を利用しています。

総務部などが入居する渋谷の事務所ビルでは、男性用小便器洗浄に水を使用しない便器を試験導入して、問題点の検証を進めています。



地下水浄水装置 [町田東急ツインズ]

### ④ESCO事業の推進

エネルギーを効率よく利用すると共にCO<sub>2</sub>削減への取り組みとして、ESCO事業を推進しています。

2010年度は、町田東急ツインズにおいて熱源改修を行いました。これにより同店のCO<sub>2</sub>排出量を約10%削減できる効果を見込んでいます。



小型化、高効率化されたターボ冷凍機（左）とボイラ(右) [町田東急ツインズ]

### ⑤LED照明への切り替え

LED照明機器は、エネルギー使用量、CO<sub>2</sub>排出量削減に効果があることから、順次導入を進めています。

2010年度は、吉祥寺店の従業員用トイレ改修に合わせてLED照明の導入をしました。



従業員用トイレ [吉祥寺店]

## 2. 限りある資源の有効活用への取り組み

化石燃料をはじめとした地球の資源には限りがあります。当社では、お客様、お取引先様のご理解、ご協力をいただきながら、限りある資源の使用量を減らす（リデュース）、繰り返し使う（リユース）、再利用する（リサイクル）の「3R」にも積極的に取り組んでいます。

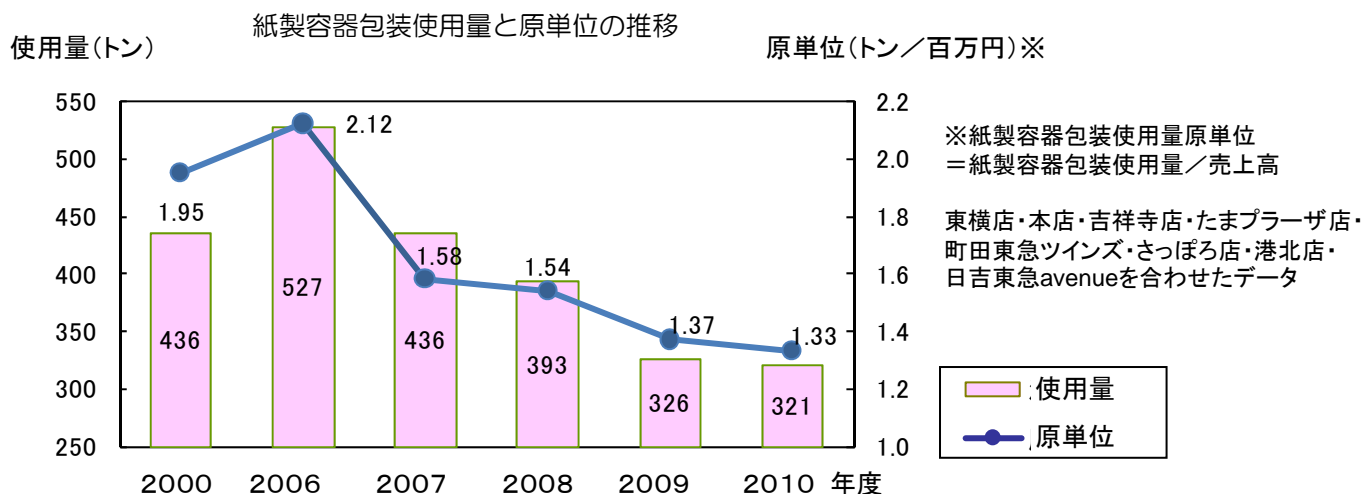
2010年度は、10月の3R推進月間に合わせ、3Rの理解、推進を徹底するため、全社一斉に3Rを題材とした環境朝礼を実施いたしました。

### (1) 限りある資源の使用量を減らす（リデュース）取り組み

当社では、お客様のご理解、ご協力をいただきながら紙製容器包装の使用量削減に積極的に取り組んでいます。

ご自宅使用のお品物やお中元、お歳暮には簡易包装をお願いしています。既にショッピングバッグをお持ちで余裕がある場合には、一緒にお入れさせていただけるかお尋ねしています。

紙製容器包装使用量原単位は、2010年度は2000年度に対し31.5%削減となり、日本百貨店協会の目標（2000年度に対し25.0%削減）を達成いたしました。

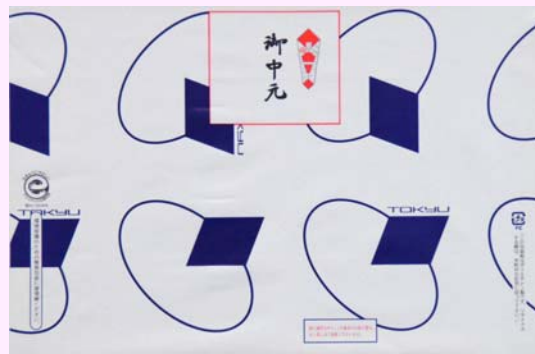


## 主な取り組み事例

### ①包装材改善の取り組み

従来より、御歳暮や御中元用”のし紙”を直接包装紙に印刷する取り組み、商品配送用の紙箱に包装紙の柄を印刷する取り組みを通して、お客様のご協力のもと、簡易包装を行なっています。

2010年度は、新たに一部の紙製ショッピングバッグの改善に取り組みました。強度試験を繰り返し、バッグの強度はそのままに、原紙重量をおよそ10%減らすことに成功しました。これにより紙の使用量の約6,500kg削減につながりました。



のし紙を包装紙に印刷

東急グループ WE DO ECOポスター



包装紙柄を箱に印刷

### ②「スマートラッピング」推進の取り組み

日本百貨店協会の提唱する「スマートラッピング」を積極的に進めています。

お客様がお持ちのショッピングバッグに余裕が見られた場合には、「一緒にお入れしてよろしいでしょうか？」のお声掛けをしています。環境意識の高まりもあり、ご理解、ご協力いただけるお客様が増えています。

### ③レジ袋使用量削減の取り組み

食料品売場のレジ袋使用量削減への取り組みとして、お客様に「マイバッグ」をご持参いただくようにご協力をお願いしています。

一部の店舗（※）では、レジ袋をご辞退されたお客様には「エコスタンプカード」に押印し、20個たまると金券または東急ポイントと交換する取り組みを行なっています。

2010年度は、レジ袋換算で約101万枚の削減効果がありました。

※東横店、吉祥寺店、たまプラーザ店、さっぽろ店、日吉東急avenue



6月は環境月間です。  
**エコスタンプ ダブルプレゼント  
キャンペーン開催中**

東急百貨店ではスマートラッピングを推進しております。  
昨年はお客様のご協力により約82万枚のレジ袋を削減することができました。

**Smart Wrapping**

6月1日(火)～30日(水)の期間中、  
右記店舗の生鮮品・デパート食品売場にて  
エコスタンプを通常の2倍捺印いたします。

■渋谷駅・東横店 ■たまプラーザ店 ■日吉東急アベニュー ■さっぽろ店  
■吉祥寺店 ■港北東急 ■レイン・七軒東急

資源節約のため、レジ袋の削減にご協力ください。  
東急百貨店では、生鮮品・デパート食品売場にてレジ袋不要なお客に限り2010年6月1日よりお客様にエコスタンプカードをお出ししております。  
500円(税込)以上のお買物1回につきスタンプを1個捺印、20個集まると集合レジにて金券または東急ポイントとしてご利用いただけます。  
または、TOKYUポイント150ポイントに交換することもできます。詳しくは各店食品フロア内サービスカウンターにておたずねください。

上質を日々、こいっしょに。  
**東急百貨店**  
TOKYU

エコスタンプ キャンペーンポスター

### ④ペーパーレスの取り組み

2004年より、情報システム部が中心となり「SCM（サプライチェーンマネジメント）」に取り組んでいます。「SCM」は、お取引先と仕入～在庫～販売時の（単品）在庫情報を電子情報校交換により行うもので、「発注票」「仕入伝票」の印刷が不要となり、紙の使用量削減につながります。

現在、お取引先様への「支払案内」は、ほぼ100%電子化となっており、2010年度は各種伝票、帳票類で約102万枚の紙の使用量の削減となりました。

## (2) 繰り返し使う（リユース）取り組み

使える物は何度でも使用するリユースへの取り組みも、お客様、お取引先様や業界団体のご理解、ご協力をいただきながら積極的に進めています。

### 主な取り組み事例

#### ①百貨店統一ハンガー利用の取り組み

日本百貨店協会とアパレル産業協会・統一ハンガー協議会の協働による「百貨店統一ハンガー」による納品～返品システムのシステムは、東横店、本店、吉祥寺店、たまプラーザ店、さっぽろ店で軌道に乗り、順調に運用しています。2010年度の回収実績は、137,640本となりました。

その他のハンガー類も用途別や形状別に分別し、再利用を進めています。

#### ②”折コン”使用推進の取り組み

商品の納・返品時に欠かせないのが運搬用の箱です。

ダンボール箱の使用からお取引先様のご協力をいただきながら”折コン（折たたみコンテナ）”の受け入れを進めています。

折コンの受け入れが多い店舗では、納品口近辺に折コン集積場所を設け、お取引先様、配送業者の方々へ便宜を図っています。



折コン集積 [東横店]

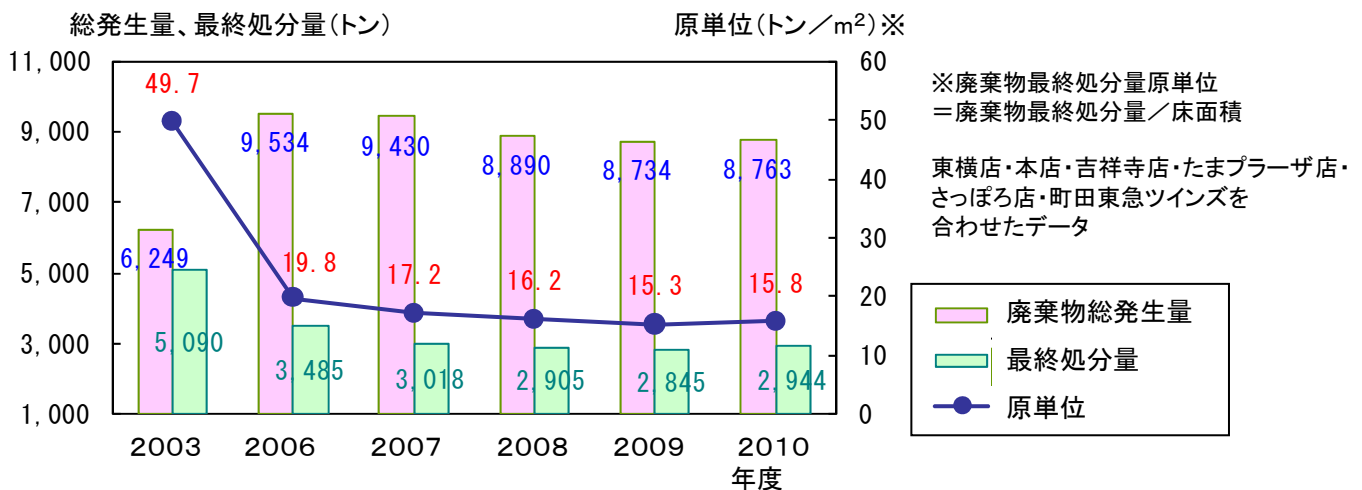
### (3) 再利用する（リサイクル）取り組み

廃棄物の最終処分（再利用ができず、焼却、埋立されるもの）削減への第一歩は分別です。当社では、法律、自治体の条例に従い分別に取り組んでいます。

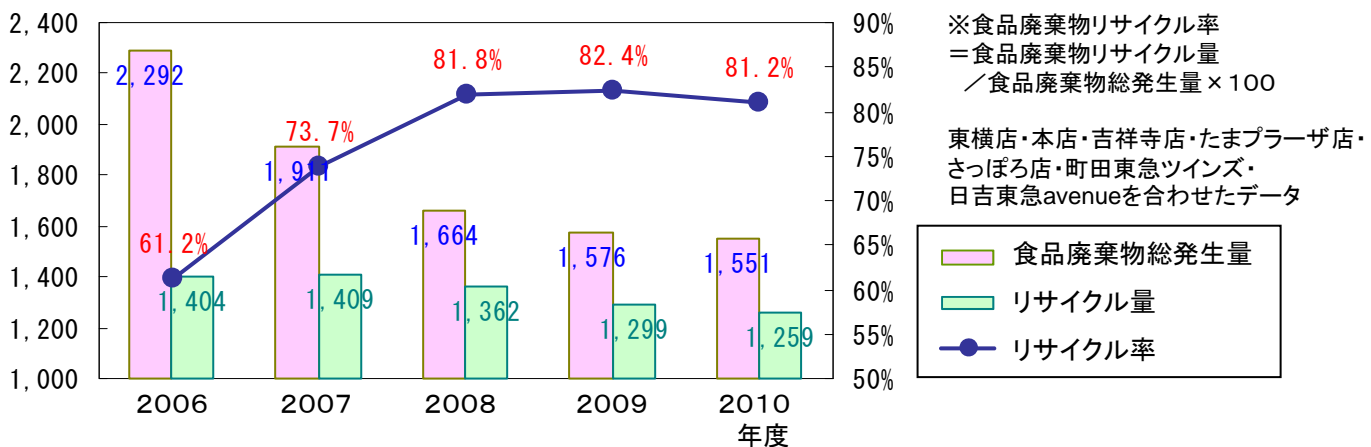
2010年度の廃棄物最終処分量原単位は、2009年度に対し約1ポイント下回りましたが日本百貨店協会の数値目標（1993年度を基準として30%削減）に対しては約70%の削減となっています。

また、食品廃棄物のリサイクルにも積極的に取り組んでいます。食品リサイクル法で求められるリサイクル率を上回る、約80%の水準で推移しています。

廃棄物総発生量、最終処分量と原単位



食品廃棄物総発生量とリサイクル量



## 主な取り組み事例

### ①ペットボトルキャップ回収の取り組み

使用済みのペットボトルのキャップを回収し、NPO法人「エコキャップ推進協会」を通じてリサイクル業者へ売却しています。その売却益により購入した「ポリオワクチン」は発展途上国へ寄贈されています。

2010年度は全社で約1,340千個回収、1,675人分の寄贈につなげることができました。



キャップ回収 [東横店]

### ②産業廃棄物リサイクルの取り組み

分別を徹底することで、従来廃棄していたものが新たな資源として生き返ります。正しく分別するために、廃棄物分類表を掲示しています。

その結果、一般廃棄物、産業廃棄物を併せたリサイクル率は、ここ数年70%台後半を維持しています。

2010年度は、ダンボール約3,327トン、古紙約537トンをほぼ100%リサイクル、再度紙資源として生まれ変わります。

また、発泡スチロール約69トンもほぼ全量、再生プラスチック素材や燃料にリサイクルしています。廃油約93トンについても、工業用脂肪酸（タイヤ、石鹸等）や土壌改良剤にリサイクルしています。



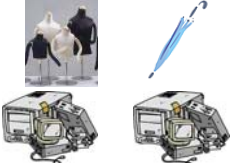
食品廃棄物は、食品以外のもの（割り箸やラップ等）の分別を徹底し、水を十分に切ることで、リサイクル率は約80%の水準を維持しています。主に飼料、肥料になるほか、一部はメタンガスによるエネルギーとして利用されています。



ゴミ箱 [町田東急ツインズ]



種類毎に計量 [町田東急ツインズ]

No.	置場名称	廃棄物の種類	廃棄物の内容と出し方
1	食品残さ		食品の食べ残し、売れ残り、調理残さ
2	燃やすごみ		食品が付着した紙ナプキンなど汚れている紙、不衛生な紙 割り箸・竹串・構枝、たばこの吸い殻、紙おむつ
3	ダンボール		ダンボール ※たたんでお出しく下さい。
4	古紙		シュレッダー紙、封筒、はがき、伝票、メモ紙、コピー用紙、商品の空箱、 ポップ、ポスター、クッションペーパー、値札タグ、レシート、パンフレット、 ノート、紙袋、包装紙、牛乳パック(水ですすいで下さい)、新聞、雑誌など ※汚れている紙、不衛生な紙は「可燃物」としてお出しく下さい。 ※ひもで束ねるか、ビニール袋に入れてお出しく下さい。
5	ビニール		商品梱包・包装のビニール ※汚れたビニールは「可燃物」としてお出し下さい。
6	PPバンド		PPバンド ※袋にいれてお出しく下さい。
7	発泡スチロール		
8	飲料用 ペットボトル		飲料用ペットボトル ※中身は空にしてすすいでください。
9	ハンガー		ハンガー ※袋にいれてお出しく下さい。
10	その他プラス チック		
11	空き缶		飲料缶、食品缶 ※中身は空にしてすすいでください。
12	空き瓶		飲料・調味料・食品の瓶 ※中身は空にしてすすいでください。
13	金属類		一斗缶、スプレー缶、その他金属 ※スプレー缶は使い切り、穴を開けてお出しく下さい
14	ガラスくず、陶 磁器くず等		コップ等ガラス類、茶碗などの陶器類
15	廃蛍光管		※割らないよう保管してください。
16	廃乾電池		乾電池 ※袋などにまとめておいてください。
17	大型ごみ		オフィスの机、椅子、ロッカー、棚、家電製品、パソコン かさ、マネキン等

廃棄物分類表 [たまプラーザ店]

### 3. 環境に配慮した商品の提供への取り組み

百貨店として環境に配慮した商品および商品情報を積極的にお客様に提供しています。

普段から環境配慮商品の社内基準を定めご提案すると共に、2010年6月は環境月間に合わせてキャンペーンを行いました。

#### 主な取り組み事例

##### ①「エコキャンペーン」の実施

6月の環境月間に合わせて、「楽しくココにこだわってエコ！ココエコ」キャンペーンを実施いたしました。

東横店・本店・吉祥寺店・たまプラーザ店において、6月3日（木）～16日（水）の期間中、環境配慮商品の提案、販売を行いました。専用リーフレットに提案商品15点を掲載、合計940点、約3百万円の商品をお買い求めいただきました。

また、6月1日（火）～30日（水）には「ココからはじめる身近なエコ ココエコチャリティ」を行いました。当社オリジナルの携帯ストラップ〈渋谷のしっぽ〉を作製したところ、販売個数は6,425個にのぼりました。売上金の一部を「美しい多摩川フォーラム事務局」へ寄付、多摩川一斉水質調査など多摩川の環境・浄化活動に役立てられました。



リーフレット



店内の様子 [東横店]

##### ②環境配慮商品の提案

法人外商事業部は、主に企業様向けに様々な環境配慮商品を販売しています。

近年は、環境に配慮している商品を提案するようお客様からご要望、ご指示をいただく機会が増えています。これに対し独自の基準を設け、どのような点が環境に配慮しているのか丁寧に説明し提案しています。

2010年度は、96件の環境配慮商品の提案を行い、20件、約210百万円のご注文をいただきました。

**エコ配慮商品・防災用品**

時代の要請に応えるご提案を。

地球環境を考慮し、環境に与える影響が最小限で、生物にとっても安全な素材・製品をご提案しています。

**エコ配慮商品のご提案**

- ・PETボトル再生生地を使用したレジバッグ
- ・バイオマスプラスチック素材を利用し、森林資源を無駄にしない携帯マイ箸
- ・地球温暖化防止に役立つ植物「クナフ」を使用したキッチンペーパー等

**防災対策のご提案**

防災専門企業との連携と情報交換により、きめ細かい対策案をご提案いたします。(また企業様のご担当者へ防災訓練のガイドをさせていただく他、防災に関するツールなどご相談にお応えします。)

パンフレット [法人外商事業部]

## 4. 地域の皆様に快適な環境をご提供する取り組み

小売業は地域の皆様のご支持があってこそ・・・地域環境の改善、整備など地域社会の皆様、お客様、商店会、自治体などと協力して環境活動に取り組んでいます。

### 主な取り組み事例

#### ①環境美化活動推進：各店

自らの店舗周りのみでなく、周辺も含めた快適な環境づくりは、お客様が気持ちよくお買い物を楽しんでいただき、そして再びお店に、街に足をお運びするためには必須の事柄です。

2010年度も地域商店街清掃活動をはじめとした各種清掃活動に積極的に参加しました。



渋谷クリーンキャンペーン



豊平川清掃 [さっぽろ店]



多摩川清掃  
[吉祥寺店、町田東急ツインズ]

#### ②「桜フェスティバル」に参加

2010年3月19日～4月11日、たまプラーザの街全体で行なわれた「we love tamaplaza project」第1回桜フェスティバルに、たまプラーザ店が参加しました。

期間中、店内にスタンプラリー・スタンプ設置場所のご提供をしたほか、従業員は特製バッジを着用し、フェスティバルを盛り上げる一端を担いました。



フェスティバルの様子



フェスティバル公式パスポート

## 5. 環境関連法規制順守と環境リスク管理の徹底

環境関連法規制の適正な対応を推進しています。

### (1) 省エネ関連法対応（省エネ法、東京都環境確保条例）

地球温暖化防止のための法規制、自治体による条例は年々厳しくなっています。

法律、条例に従い必要な書類を遅滞なく提出すると共に、本社、各店舗ごとに必要な人員を配すると共に資格の取得に努めています。

### (2) PCB管理の徹底（PCB廃棄物特別措置法）

使用済みPCBを含む機器は一ヶ所に集積し、定期的に保管状況を確認しています。最終処分は順番待ちとなっており、引き続き適正に保管してまいります。

### (3) フロン管理の徹底（フロン改修破壊法）

フロンの使用、回収、保管は法律に従って適切に行うと共に、廃棄する際には処理業者の許可証などを確認の上、委託しています。



PCB保管場所〔本店〕

### (4) 廃棄物管理の徹底（廃棄物処理法）

廃棄物の不法投棄への監視、罰則は年々強まっています。

当社でも事業活動に伴い排出する大量の廃棄物を適正に管理し、専門業者への委託、マニフェスト伝票の適正回収、中間処理施設や最終処分場視察などを通して、排出事業者責任を果たしています。



中間処理場の視察

# <2010年度の取り組み結果>

○:達成 ×:未達成

環 境 目 的	環 境 目 標	達 成 状 況
<p><b>1. 省エネルギー</b> 地球環境保全、温暖化防止のため、東京4店及び札幌店のCO<sub>2</sub>排出量を、2010年から2014年の間で基準排出量に対し8,000トン以上削減します。</p>	<p>東京4店舗及び札幌店のCO<sub>2</sub>排出量を、猛暑による影響(+986トン)を除き前年比556トン以上削減します。 (株東急百貨店サービス)</p>	<p>猛暑による影響を除き前年比1,394トン削減 (実質前年比408トン削減)</p> <p style="text-align: right;">○</p>
<p><b>2. 環境配慮商品提供</b> お客様に安心してお買い物をお楽しみいただけるよう、エコ配慮商品、エコ配慮商品情報を提供し、顧客満足向上を目指します。</p>	<p>①エコ配慮商品を積極的に販売するためエコキャンペーンを年1回以上実施します。 (婦人・紳士統括部、食品統括部)</p>	<p>①6月「楽しくココにこだわってエコ!ココエコ」実施</p> <p style="text-align: right;">○</p>
	<p>②エコ配慮商品の売上目標：210百万円 (婦人・紳士統括部、食品統括部)</p>	<p>②エコ配慮商品の売上げ：256百万円</p> <p style="text-align: right;">○</p>
	<p>③エコ配慮商品の積極的な提案を行います。(営業担当者一人当たり半期に2件以上を目指します) (法人外商事業部)</p>	<p>③目標：96件 実績：96件</p> <p style="text-align: right;">○</p>

環 境 目 的	環 境 目 標	達 成 状 況
<p><b>3. 省資源</b></p> <p>省資源を推進するため紙製容器包装の使用量削減に努めます。</p>	<p>省資源を推進するためお客様のご理解、ご協力をいただきながら紙製容器包装の使用量原単位を前年度以下にします。</p> <p>(2000年を基準として、29.0%以上削減)</p> <p>(営業政策室)</p>	<p>基準年比31.5%削減</p> <p style="text-align: right;">○</p>
<p><b>4. 廃棄物削減</b></p> <p>循環型社会システム実現のために、廃棄物の削減、リサイクルに努めます。</p>	<p>①店舗からの廃棄物の最終処分量を前年度以下にします。</p> <p>(1993年を基準として31.1%以下)</p> <p>(株東急百貨店サービス)</p>	<p>①基準年比31.9%</p> <p style="text-align: right;">×</p>
	<p>②食品廃棄物の再生利用等の実施率を前年度以上にします。</p> <p>(再生利用率：82.0%以上)</p> <p>(株東急百貨店サービス)</p>	<p>②再生利用率：81.2%</p> <p style="text-align: right;">×</p>
<p><b>5. 社会貢献活動</b></p> <p>企業の社会的責任を全うする事業活動を行います。</p>	<p>地域貢献活動の推進をします。</p> <p>(各店、総務部、東急百貨店健康保険組合)</p>	<p>商店会、町内会清掃協力、環境イベント参加等実施</p> <p style="text-align: right;">○</p>

## <2011年度の取り組み計画>

環境目的（中期目標）	環境目標（2011年度目標）
<p><b>1. 省エネルギー</b></p> <p>地球環境保全、温暖化防止のため、東京4店及び札幌店のCO<sub>2</sub>排出量を、2010年度から2014年度の間に基準排出量に対し19,453トン以上削減します。</p>	<p>東京4店及び札幌店のCO<sub>2</sub>排出量を基準年に対し4,755トン以上削減します。 (株東急百貨店サービス)</p>
<p><b>2. 環境配慮商品提供</b></p> <p>お客様に安心してお買い物をお楽しみいただけるよう、エコ配慮商品、エコ配慮商品情報を提供し、顧客満足向上を目指します。</p>	<p>① エコ配慮商品を積極的に販売するためエコキャンペーンを年1回以上実施します。 (婦人・紳士統括部、食品統括部)</p>
	<p>② エコ配慮商品の売上目標：220百万円 (婦人・紳士統括部、食品統括部)</p>
	<p>③ エコ配慮商品の積極的な提案を行います。 (営業担当者一人当たり半期に2件以上を目指します) (法人外商事業部)</p>
	<p>④ 東急グループを中心とした法人に、電子購買システムを利用してグリーン購入法対応商品を販売し、実績を把握します。 (法人外商事業部)</p>
<p><b>3. 省資源</b></p> <p>省資源を推進するためお客様のご理解、ご協力をいただきながら、紙製容器包装使用量原単位を、2000年を基準として2020年には40%以上削減します。</p>	<p>紙製容器包装の使用量原単位を基準年（2000年）より32.8%以上削減します。 (営業政策室)</p>

環境目的（中期目標）	環境目標（2010年度目標）
<p><b>4. 廃棄物削減</b></p> <p>循環型社会システム実現のために、廃棄物の削減、リサイクルに努めます。</p>	<p>① 店舗からの廃棄物の最終処分量（㎡当たり）を1993年を基準として30.8%以下にします。 （㈱東急百貨店サービス）</p>
	<p>② 食品廃棄物の再生利用等の実施率を82.4%以上にします。 （㈱東急百貨店サービス）</p>
<p><b>5. 社会貢献活動</b></p> <p>企業の社会的責任を全うする事業活動を行います。</p>	<p>地域貢献活動の推進をします。 （各店、総務部、東急百貨店健康保険組合）</p>